

# 西多摩農業改良普及センターからのお知らせ

## 「カンキツ類のせん定と芽かきにチャレンジしませんか」

主任普及指導員 原島 浩一



ミカンなどのカンキツ類の樹勢や樹形を整えずに放っておくと、枝が密集し果実が収穫しにくくなるばかりでなく、病害虫が多発しやすくなります。そのため、「せん定」や「芽かき」などの作業が必要となります。「せん定」は3月（遅くとも4月には終わらせます）、「芽かき」は3月以降に実施します。

### 1 取り除く枝

せん定では、まず基本樹形（図1）をイメージし、枝の配置を考えながら作業を進めます。実際の作業では、初めに枯れ枝の切除、不要な枝の除去（図2）から始めましょう。また、枝先は1本だけにします。なお、カンキツ類は枝の先端に花芽をつけるので、果実をならせたい枝の先は切らないようにしましょう。そして、樹冠の内部を明るくすることは大事なことです。やりすぎて直射日光が枝に当たり続けると日焼けを起こして枝が枯れるので、適度に小枝や葉を残します。

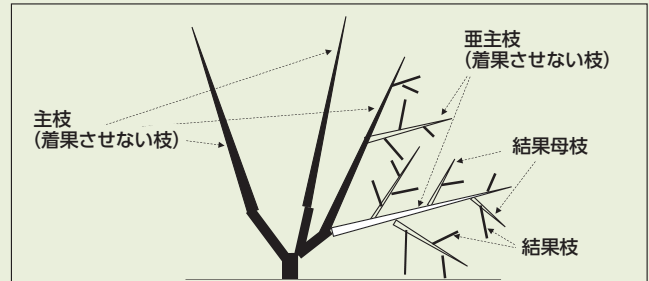
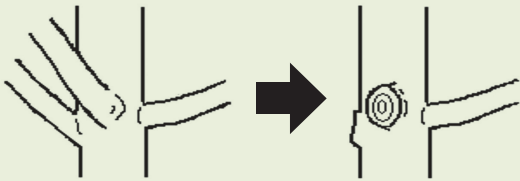
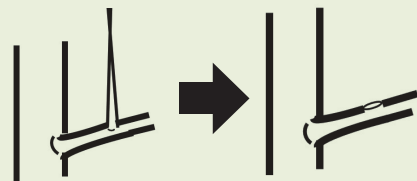


図1 カンキツ類の基本樹形

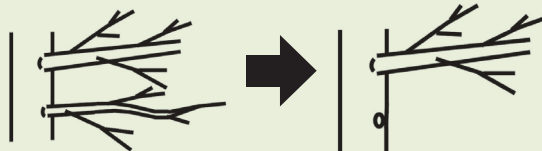
**車枝** 1ヶ所から複数の枝が発生していると分岐部で裂けやすくなるので1本にします。



**徒長枝** 真上に向かって徒長した枝は、発生部から先の部分を弱らせ、樹形を乱すので除去します。



**平行枝** 日陰の枝を作らないように、弱弱しい方の枝を除去します。



**枝先の処理** 養水分の流れを乱さないように枝先を1本にします。

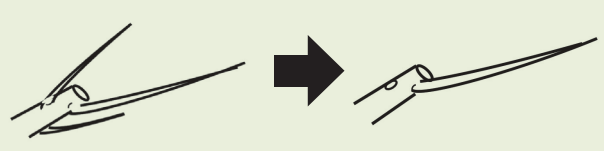


図2 不要な枝の除去

### 2 せん定できる量

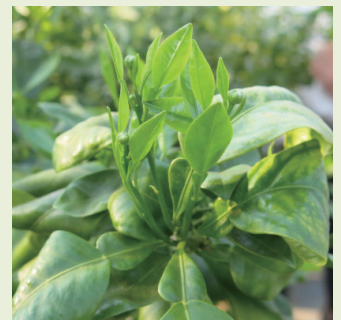
カンキツ類では、せん定時に除去できる葉の量には上限があり、せん定する前の葉数の約20%以内とされています。しかし、気を付けていても、不要な枝を除去していると予想以上の葉を落としてしまうことがあります。そこで、3月以降「芽かき」を行い、不要な枝が無い状態にします。

### 3 「芽かき」で取り除く芽

不要な芽をそのままにしておくと、来年のせん定で除去することになり、すぐに除去葉数の上限を超えてしまいます。下記を参考に早いうちから芽かきを実施してください。

枝の背面から元気よく上に向かって伸びる芽 → 徒長枝になり樹形を乱します。やわらかいうちに指でかき取りましょう。

枝の切り口付近から発生する複数の芽 → そのままにすると車枝になります。横向き、もしくは斜め上に向く芽を1つだけ残し、残りは指でかき取りましょう。



ぜひ、せん定と芽かきを実施して来年の楽しい収穫につなげましょう。枝の切口付近に発生した複数の芽